

ボートレースチャリティ基金委員会

# ボートレースチャリティ基金 協力報告書

2021

---





## 選手会口

選手会口は選手会所属のボートレーサーの皆さまから頂いたご寄付で、ハンセン病患者・回復者及びその子供たちに対する教育支援に使用させていただいています。

2003年度から2017年度まで15年間で第1次～第4次教育支援を行い、インド、ネパール、中国、フィリピン、インドネシア、ベトナム7か国において、延べ5,525人が小中学校、高校、大学、専門学校へ通う事が出来ました。

現在は、第5次教育支援として（2019年度から2022年度まで）、WHOハンセン病制圧大使による訪問国等を対象とする支援活動を行っています。

## 収入/支出状況

2022年3月31日現在

年度	事業名	収入	支出	事業期間
2002	第1次教育支援	¥15,310,000	¥14,952,585	2003-2009
2008	第2次教育支援	¥12,585,965	¥11,947,129	2009-2013
2010	第3次教育支援	¥11,908,005	¥10,663,364	2010-2014
2014	第4次教育支援	¥15,000,000	¥15,613,005	2014-2017
2019	第5次教育支援	¥15,000,000	¥9,231,100	2019-2022
総計		¥69,803,970	¥62,407,183	

\* 2022年3月31日現在基金残額: 7,396,787円

## 2021年度支援活動

第5次教育支援として、2019年度より3ヵ年計画でインドのGRETNALTESという学校を通じてハンセン病回復者子女への支援を実施しています。このGRETNALTESには2018年に笹川陽平WHOハンセン病制圧大使が訪問し、実際の教育現場を見、子供達と交流し、創設者の理念に賛同し、支援が決定しました。また、2021年度からはネパールにおいて、ハンセン病コミュニティの生活改善と社会統合の実現を目指して、ノンフォーマル教育事業を開始しました。

※ノンフォーマル教育とは初等教育から高等教育までの制度化されたフォーマル教育の外側で行われる教育活動全般で、子供から成人までの特定のグループに対する学習内容を提供します。

事業名	支援額
インド・アンドラプラデッシュ州における回復者家族への教育支援	¥2,753,485
ネパールの回復者に対するノンフォーマル教育支援	¥742,730
合計	¥3,496,215

## インド・アンドラプラデッシュ州における回復者家族への教育支援

支援先	GRETNALTES (グレーターテナリハンセン病治療・教育支援協会)
事業期間	2021年4月1日～2022年3月31日
支援額	¥2,753,485

アンドラプラデッシュ州には57のハンセン病コロニーがあり、厳しい偏見・差別から逃れてきた回復者と家族が生活しています。GRETNALTESは1981年に、患者の治療、リハビリ、形成手術の支援のために回復者が創設しました。2003年には、回復者子女に平等な教育機会が与えない状況の改善のため、学校を設立しました。現在では3歳から中学生まで約1,000名の生徒が所属し、約100名の回復者子女が在学しています。地域の生徒から授業料を集める一方、回復者子女には授業、宿泊、食事を無償で提供しています。回復者子女が教育を受けることで、将来的に定職に就き、両親をはじめとするハンセン病回復者の社会統合を促進することを目指します。2021年度は、前年度に引き続き、実家から離れ、寄宿して学校に通う94名の回復者子女の寄宿費を支援しました。英語能力コンテストへの参加、また国際青少年デーや世界人権デーといった日に開催されるイベントに積極的に参加しました。世界ハンセン病の日には、生徒も一緒にプラカードを持ってラリー活動を行い、啓発活動に貢献しました。

(写真：授業風景、ラリー活動の様子)



#### D.モハナ・シヴァ・ガンガ (9年生、バニ・ナガールコロニー出身)



3人兄弟の真ん中で姉と妹がいます。両親ともにハンセン病回復者で、生活が苦しく、教材代すら払えなくなりました。そのような状況で、私は勉強への興味を失い、7年生で地元の学校を辞めてしまいました。しかし、両親がこの学校のことを知り、入学を勧めてくれました。この学校は、教材代、食事、寮費すべて無料です。親切な校長先生に影響を受け、勉強への興味を取り戻すことができました。好きな教科は社会です。私の夢は警察官になることです。

#### S.サントス (8年生、クルパ・コロニー出身)



私の父は農家です。父が一家の大黒柱ですが、ハンセン病の後遺症から手が動かしづらいため、ハードな仕事はできません。収入が十分でない中、父はいい教育を私たちに受けさせてあげたいと願っており、村の小さな学校では不十分だと思っていました。そこでこの学校のことを知り、6年生からこの学校に入学しました。寮のスタッフは家族のように親切に接してくれ、健康状態まで面倒を見てくれます。この学校に入ってからより勉強への意欲が高まり、成績はクラスで一番です。好きな教科は英語で、将来は医師になりたいです。

## ネパールの回復者に対するノンフォーマル教育支援

支援先	IDEA ネパール
事業期間	2021年4月1日～2022年7月31日
支援額	¥742,730

IDEA ネパールは、1993年に設立されたハンセン病回復者団体です。ネパール全体の識字率は65%と低く、中でも社会的に弱い立場に置かれているハンセン病患者・回復者やその家族の教育レベルはさらに低く、IDEA ネパールのメンバーの85%は十分に文字の読み書きができない状況です。教育を受けていないために安定した仕事に就くことができず、日雇い等の仕事で生計を立てている人も多くいます。

本事業では、これまで十分に教育を受けることができなかったハンセン病回復者の女性（特にハンセン病に感染したことによって配偶者に見放された人を優先）に再び学ぶ場を提供し、セルフスティグマを解消し尊厳ある生活を営むことができるようになることを目指しています。支援者を150名選定し、読み書きの授業だけでなく、ハンセン病のセルフケアといった自助方法についての授業を実施することで、ハンセン病回復者のエンパワメントや社会統合に繋がるように支援しています。

※新型コロナウイルス第2波流行のためにロックダウンとなり、活動開始が2021年8月となったため、2022年7月まで事業延長しております。

(写真：読み書きの授業)



## チャリティオークション他口

チャリティオークション他口は、ボートレーサーの方々からご提供いただいたグッズをオークションにかけた収益金（下記、チャリティオークション）とレース優勝賞金からのご寄付等（下記、オークション以外）から成り立っています。オークション他口では、各国のハンセン病回復者やその家族の生活環境改善や経済自立支援、ハンセン病対策や災害支援など様々なプロジェクトを行っています。

### 収入状況

2022年3月31日現在

年度	チャリティオークション	<オークション以外> 冠レース・ボートレース関係者	合計
2001	¥4,208,626		¥4,208,626
2002	¥8,515,071	¥31,000	¥8,546,071
2003	¥5,061,644	¥4,455,250	¥9,516,894
2004	¥2,610,740	¥3,084,000	¥5,694,740
2005	¥4,227,306	¥1,658,495	¥5,885,801
2006	¥3,367,947	¥3,957,578	¥7,325,525
2007	¥3,232,227	¥4,554,838	¥7,787,065
2008	¥3,208,877	¥4,254,410	¥7,463,287
2009	¥1,781,454	¥2,459,735	¥4,241,189
2010	¥3,109,270	¥2,643,816	¥5,753,086
2011	¥2,212,188	¥666,646	¥2,878,834
2012	¥2,340,193	¥21,163,956	¥23,504,149
2013	¥2,172,490	¥392,458	¥2,564,948
2014	¥2,351,211	¥177,242	¥2,528,453
2015	¥2,526,979	¥1,972,600	¥4,499,579
2016	¥2,619,623	¥1,490,000	¥4,109,623
2017	¥3,216,410	¥1,601,000	¥4,817,410
2018	¥3,741,709	¥1,522,000	¥5,263,709
2019	¥3,645,546	¥1,612,000	¥5,257,546
2020	¥9,226,377	¥1,612,000	¥10,838,377
2021	¥6,189,942	¥1,452,000	¥7,641,942
<b>総計</b>	<b>¥79,565,830</b>	<b>¥60,761,024</b>	<b>¥140,326,854</b>

## 支出状況

2022年3月31日現在

活動実施年度	予算	支出額	残額	繰越額	繰越後残高
2002-2003	¥10,000,000	¥10,000,000	¥0	-	¥0
2004-2010	¥16,000,000	¥14,688,352	¥1,311,648	-	¥1,311,648
2006-2010	¥10,000,000	¥8,829,808	¥1,170,192	-	¥2,481,840
2008-2013	¥16,000,000	¥14,288,688	¥1,711,312	¥2,000,000	¥2,193,152
2010-2013	¥14,000,000	¥12,436,871	¥1,563,129	¥2,000,000	¥1,756,281
2013-2015	¥30,000,000	¥27,002,616	¥2,997,384	¥4,500,000	¥253,665
2015-2016	¥8,500,000	¥7,431,194	¥1,068,806	¥715,041	¥607,430
2017	¥9,000,000	¥8,740,896	¥259,104	¥866,534	¥0
2018	¥5,261,638	¥4,757,320	¥504,018	¥504,018	¥0
2019	¥5,494,368	¥1,940,087	¥3,553,981	¥3,553,981	¥0
2020	¥8,656,607	¥6,251,613	¥2,404,994	¥2,404,994	¥0
2021	¥10,831,621	¥6,868,001	¥3,963,620	¥3,963,620	¥0
<b>総計</b>		<b>¥123,235,446</b>		-	-

※2022年3月31日現在基金残額: 17,091,408円

## 2021年度支援活動

新型コロナウイルス蔓延がもたらした未曾有の危機と、それに伴う社会変容により、ハンセン病当事者は深刻な打撃を受けました。2021年度はハンセン病当事者が抱える問題の改善に取り組むために、当事者が主体となった包括的なアプローチを行う事業への支援を、インド、ミャンマー、モザンビークで行いました。また、2018年に笹川WHOハンセン病制圧大使が訪問したミャンマーとモザンビークでは、それぞれ回復者組織メンバーへの教育／職業訓練を実施しました。

事業名	支援額
COVID-19 ハンセン病コミュニティ支援（インド・ジャルカンド州）	¥2,274,451
COVID-19 ハンセン病コミュニティ支援（ミャンマー）	¥1,676,564
COVID-19 ハンセン病コミュニティ支援（モザンビーク）	¥639,962
ミャンマーの回復者組織メンバーの教育支援	¥1,769,114
モザンビーク・マニカ県、ナンブラ県における職業訓練の実施	¥507,910
<b>合計</b>	<b>¥6,868,001</b>

## COVID-19 ハンセン病コミュニティ支援

2019 年末からの世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、各国では都市封鎖などの感染拡大防止策が講じられ、社会経済や保健政策等に様々な影響が出ました。世界各地のハンセン病患者・回復者やその家族は、生計手段の喪失、ハンセン病やその後遺症を治療するための保健サービスの利用困難、新型コロナウイルスの感染によるさらなる偏見・差別への恐れなど、様々な課題に直面しました。このような状況を受け、2021 年度は昨年度に引き続き、ハンセン病コミュニティへの支援を実施しました。問題解決に持続的に貢献できる支援を届けるため、活動の主体を当事者団体に据え、当事者団体のメンバーが、現地のサポート団体の助言を受けつつ、自らの手で主体的に事業の実施に関与することで、団体としての能力を向上させ、コミュニティの向上のために継続して活動できる力をつけることを目指しました。

### インド

支援先	ATMA SWABHIMAN (サポート団体: Jago 財団)
事業期間	2021 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日
支援額	¥2,274,451

ATMA SWABHIMAN は 2008 年にジャルカンド州で当時者組織として設立された NGO で、現在、9 名のコロニーリーダーと 2 名のソーシャルワーカーが中心となり、「ハンセン病回復者の社会統合」を目標に、回復者が公共福祉の恩恵を得ることができるようになるためのアドボカシー活動、差別撤廃のための啓発キャンペーン、セルフケア促進など様々な活動を実施しています。

インドでは 2021 年 5 月頃に新型コロナウイルスの変異種（デルタ株）が大流行し、都市部、農村部ともに人々の生活はこれまで以上に困難なものとなりました。

本事業では、社会的に弱い立場に置かれている人々の権利獲得を目指して活動している Jago 財団のサポートを得て、1 年間にわたって、以下の活動を実施しました。

#### ① 直接的ニーズへの支援

120 世帯の住民に食料品を配布し、訪問した 40 世帯の治療が必要な回復者に潰瘍治療を行いました。また、生活困窮者に食事を提供するサービスであるコミュニティ・キッチン を 4 つのコロニーで立ち上げました。コロニーでは、物乞いや労働に従事している子どもたちが多くいます。彼らの将来やコロニーの発展を見据え、6～14 歳の子どもたちが学び、自主的に活動する力を身に着けるため、子ども評議会を立ち上げました。4 つのコロニーで、150 人の子どもたちが子どもの権利について学習し、自らの要望をまとめるトレーニングを受講しました。

#### ② 行政へのアドボカシー

コロニーリーダー、女性リーダー、子ども評議会メンバー、その他コロニーの住民が共同で郡行政の各部署（警察署、診療所など）宛てに土地の権利や障害者証明の付与、子ども達への教育支援など、コロニーからの要望を提出しました。この要望書は、郡の行政官より各関係部署に届けられました。

#### ③ 情報発信

SNS や公式ウェブサイトを活用し、専門家の意見を聞きながら積極的に情報発信を行い、またファンドレイジングを開始するためのプラットフォームを整備しました。啓発活動も積極的にを行い、世界ハンセン病の日にはコロニーの 100 人以上の住民が活動に参加することで、ハンセン病についての正しい知識を広めるだけでなく、回復者自身の自尊心回復にも寄与しました。

## 医療支援



各家庭を訪問した際、潰瘍の治療が必要なハンセン病回復者に治療を行いました。

## コミュニティ・キッチン



緊急支援の一つとして、親を亡くした子ども、高齢者、障害者に優先的に食事を提供するサービスを立ち上げました。

## 子ども評議会



子ども自らのニーズ、要望、課題を主張し、要望書を用意できるようにトレーニングを実施しました。毎週ミーティングを実施し、活動計画を立てています。

## 情報発信



ハンセン病回復者の尊厳を訴える内容を Facebook に投稿しました。彼女の母親はハンセン病を患いましたが、適切な治療によって後遺症はありません。

## ミャンマー

支援先	MAPAL (ミャンマーハンセン病回復者協会) (サポート団体: TLM ミャンマー)
事業期間	2021年10月1日～2022年2月28日
支援額	¥1,676,564

2018年、笹川 WHO ハンセン病制圧大使が出席し、日本財団と笹川保健財団が主催したミャンマーハンセン病会議をきっかけに、ハンセン病当事者団体 MAPAL が設立されました。全国から 294 名がメンバー登録しており、7 割程度のメンバーは社会での根深い偏見や貧困のために、中等レベル以上の教育を受けておらず、安定した収入を得ることができていません。

ミャンマーでは新型コロナウイルスの流行に加えて、2021年2月に発生したクーデターとそれに続く抗議活動への弾圧が激化し、2021年の経済状況は経済成長率マイナス18%まで落ち込みました（世界銀行データ）。さらに食料や燃料といった生活必需品の値段が高騰し、市民生活は壊滅的な打撃を受けました。特にハンセン病当事者をはじめとする経済的に脆弱な人々は、日雇い労働や物乞いという唯一の生計手段を失い、日々の食料を買うことができないほど大変困難な生活を強いられており、緊急の人道支援が求められている状況でした。

本事業では、長年にわたり、ミャンマーのハンセン病支援を行なっている TLM ミャンマーのサポートを得て、緊急支援を行いました。

### 緊急支援



本来であれば、各家庭を訪問し、食料や衛生用品を届ける場所ですが、新型コロナウイルス蔓延防止のための移動制限が非常に厳しく、物資を運ぶための車を借りることさえできない状況でした。そのような状況下においては、オンライン決済を用いて支援金給付を行うことで、一刻も早く支援を届けることができると判断し、294名の当事者団体メンバーに一人当たり65,000チャット（約5,000円）を支給しました。支援金を受け取ったメンバーは、1ヶ月分の食料（米、油など）、薬、また新型コロナウイルス感染を防ぐための衛生用品を購入しました。パンデミックと政変という二重の困難に見舞われ、生活に困窮する当事者にとって1ヶ月間の食料は大変貴重な支援でした。

## モザンビーク

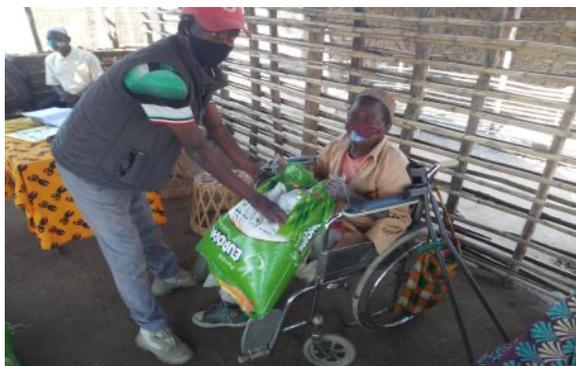
支援先	ALEMO (モザンビークハンセン病回復者協会) (サポート団体: TLM モザンビーク)
事業期間	2021年7月1日～2021年10月31日
支援額	¥639,962

ALEMO はハンセン病とそれに伴う差別、貧困の撲滅をミッションとする当事者団体として、すべての当事者がコミュニティ内で自立し、尊重されること、当事者と非当事者の社会的統合を目指して活動し、1,500名の当事者メンバー（多くは障害者やホームレス）がいます。今回支援対象としたのは28コミュニティの約700名のメンバーであり、うち115名がハンセン病による障害があります。

モザンビークは2020年3月の緊急事態宣言の後、12月まではコロナの封じ込めに成功していましたが、その後患者数が増え、2021年2月に本国初となる災害宣言が発令されました。

本事業では、長年モザンビークでハンセン病対策活動を行っているTLM モザンビークのサポートの下、政府からの支援が届かない当事者団体のメンバーが飢えをしのぎ、新型コロナウイルス感染対策やハンセン病のセルフケアを実施できるよう、食料や衛生用品を配布する緊急支援を行いました。また、当事者メンバーが安定的な生活を営むことができるようになるため、貯蓄に関するトレーニングも実施しました。

### 緊急支援



コロナ禍で政府からの支援がない中、極度の貧困に陥っている高齢者や障害者へ緊急支援として、お米を132名、また、石鹸を857名の当事者メンバーに配布しました。当事者メンバーは飢餓の危機を乗り越え、新型コロナウイルスへの対策およびハンセン病のセルフケアを身に着けました。

### 貯蓄トレーニング



当事者団体のメンバーが安定的な生活のために必要な知識をつけるため、26名のコミュニティリーダーが貯蓄に関するトレーニングを受講しました。トレーニング後、リーダーは各コミュニティに知識を共有し、299名のメンバーが貯蓄を開始しました。

## ミャンマーの当事者団体メンバーの教育支援

支援先	TLM ミャンマー（英国救らいミッション・ミャンマー）
事業期間	2021年7月1日～2022年3月31日
支援額	¥1,769,114

TLM ミャンマーは、ミャンマー初の当事者団体である MAPAL を、その設立から支援してきました。新型コロナウイルス拡大に伴う移動制限によって MAPAL のメンバーにもオンラインでの国際会議への参加の機会が多くある中、メンバーが機器を所持していないことや、デジタルの知識が不十分であるために TLM ミャンマーの支援なしでは活動が困難な状況にあります。また、英語の教育を受ける機会にも恵まれなかったために、ミャンマーの当事者団体として海外の同様の団体や助成団体と直接コミュニケーションをとることや SNS で自ら海外向けに発信することができていません。

本事業では、MAPAL メンバーの能力強化を目指し、基礎的なコンピュータースキルの向上を目指すトレーニングと、英語のトレーニングを実施しました。

※2月の軍事クーデターによってミャンマー国内の銀行業務がストップし、事業開始が3ヶ月遅れたため、2022年6月まで事業期間を延長しています。

### ユ・ティンチョー・ウーさん（54歳）



ハンセン病回復者であり、MAPAL の会計係を担っています。中学校までしか出ておらず、パソコンを触ったこともありませんでした。今回のトレーニングで基礎的なコンピュータースキルを学び、エクセルでメンバーのリストを作成できるようになりました。また、英語のトレーニングも受講したことで、月に2回出席しているハンセン病回復者の会議の内容も、少しずつ理解できるようになってきました。

### マ・ゾン・マー・スーさん（21歳）



ハンセン病回復者の家族で、地理学専攻の大学2年生です。新型コロナウイルスの流行と、政情不安の影響で大学に通うことができなくなりました。安定した職業に就くためには、英語が必要です。基礎的な英語のトレーニングを受講したことで、英語が思ったより難しくないと感じる事ができ、語彙も増え、英語で多くの言葉を話すことができるようになりました。今後、家族が国際会議などに出席する場合、通訳などで活躍できると期待しています。

## モザンビーク・マニカ県、ナンブラ県における職業訓練の実施

支援先	AIFO（イタリアラウル・フォレロー協会）
事業期間	2021年9月1日～2022年3月31日
支援額	¥507,910

AIFOは、ハンセン病対策に貢献したフランス人ジャーナリストのラウル・フォレロー氏に感銘を受け、1961年にイタリアで設立された団体で、モザンビークにも現地事務所を持ち、当事者団体であるAMPALやAMOULETUの活動を支援しています。

世界の最貧国のひとつであるモザンビークにおいてハンセン病当事者に対する差別は、コミュニティにおいても公共サービスのレベルにおいても深刻です。県政府はハンセン病当事者への支援をうたってはいますが、保健センターといった公的機関にも十分な知識がなく、社会的支援を得ることは困難であり、当事者は経済的・社会的に脆弱な立場に置かれています。

本事業では、当事者団体と連携し、コロナ禍で収入を断たれた100名のハンセン病当事者の経済的・社会的安定を目指すため、職業訓練を実施しました。

### 【農業】職業訓練（ナンブラ県）

自助グループメンバー50名に農業技術とマネジメントの研修を実施し、直播栽培、輪作、有機栽培などのテーマのトレーニングを受講しました。研修最後には実際に収益事業を立ち上げるためのキット（ピーナッツ種10kg、トウモロコシ種5kg）を各参加者に配布し、各参加者は土地を与えられ、それをもとに全員が起業しました。



### 【ヘアドレッサー】職業訓練（マニカ県）

ヘアドレッサーの30日間の職業訓練を実施し、研修完了者には収益事業を立ち上げるためのキットを配布しました。

